オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

２０２３年５月20日第30号（通巻36号）
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通１０１－４５３
tel/fax;072-737-9454
mail; olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
facebook;oribunokai

イスラエルは、５月９日、突然ガザの爆撃を行った。そして、イスラム聖戦をターゲットにした攻撃であるとして、イスラム聖戦の幹部を家族もろとも爆殺を行い、民間人にまで被害が拡大した。５日間の戦闘で３３人が死亡し、その中にはイスラム聖戦の軍事指導者が含まれていた。

この攻撃の特徴は、具体的な作戦に対する報復であるより，西岸のエスカレートの背後にガザのパレスチナ勢力が、具体的には、イスラム聖戦が背後にいるとしての攻撃である。

エジプトによる停戦調停は難航し、戦闘が５日間もつづくこととなった。これはイスラエル、イスラム聖戦ともに簡単に妥協できないためであった。

攻撃の背景には、イスラエルの国内問題、そして、ネタニヤフ政権内部の問題がある。その第一は、今年の初めから続く、イスラエル国民からのネタニヤフの司法改革に反対する抗議行動の拡大である。この抗議は、ネタニヤフがこの法案の採決を延期すると表明しても、収まることはなかった。それは、この法案がネタニヤフ政権のファシスト敵性格を示すものであったからである。

世俗的なイスラエル人にとって、イスラエルが建国以来保ってきた「民主主義」が否定されると感じているからである。具体的には、最高裁の判断を議会で覆すことができるものであり、司法の命令に従わなくていいとしたことで、最高裁の判断を否定するものである。これはまた、汚職容疑がかけられているネタニヤフの免罪を狙ったものであり。また、過去の汚職で、閣僚の座から負われたシャスの党首を救済するものであることが明確である。

世俗的なイスラエル人にとって、認めがたいものであった。ネタニヤフ政権にとって、それが政治危機を作り出した。ネタニヤフにとっては、政治危機を回避するために、国民の目を外に向ける必要があった。

二つ目には、政権内部の問題である。ネタニヤフは、旧来のリクードとシャスの連立では、議席数が足りず、これまでは、政権の外にあった宗教シオニストと組むことで、過半数をつくり、政権をつくることができている。したがって、彼らが政権から離脱しないように、彼らの要求に妥協せざるを得ない立場に置かれている。

この間の西岸、エルサレムに対する弾圧、また、これまで非合法であった入植地を合法化させるなど、パレスチナ人の家の破壊、追放と入植地の拡大を行ってきた。テロリストである「ユダヤの力」のベングビエールが国内安全保障相となり、警察を自分の支配下に置き、また、宗教シオニスト党のスモトリッチは、占領軍のもとで、西岸の民政を管理しする立場について、彼は財務相でもある。

彼らは、パレスチナとの共存ではなく、民族浄化し、

かれらの宗教的信念に基づいた、イスラエルを作ろうとしており、当然、パレスチナに対する強硬な政策を進めようとしている。

当然彼らの要求は、パレスチナへの強硬な態度である。今回、停戦がなかなか、合意されなかったことの要因の一つは、かれらにネタニヤフの強硬な態度をしめす必要があったためである。

つぎに、イスラエルの攻撃が、イスラム聖戦に絞られたかということである。前回のイスラエルのガザを攻撃した際にも、ハマスをターゲットにせず、イスラム聖戦を攻撃し、ハマスとイスラム聖戦を分断する戦術が成功したとしていた。これは、ふたつの側面があると思われる。ハマスの軍事力は、イスラム聖戦などパレスチナ諸勢力の軍事力よりも大きいこと、ハマスがガザの再建に力を入れ、また、イスラエルとの捕虜交換交渉を行っていることである。今回の戦闘にもハマスは全面的に関与をしていない。

それに対して、イスラム聖戦は、イランと関係を強化し、また、西岸での軍事活動を活発に行ってきた。そのため、今回のイスラエルの軍事行動では、イスラム聖戦の指導者を暗殺することが主要な目標にされた。

これは、拡大する西岸での武装抵抗を抑えようとする意図がある。

しかし、ネタニヤフの意図にもかかわらず、この攻撃の結果ネタニヤフの支持が増えることはなかった。

西岸では、武装抵抗が拡大しており、それに対する強硬な弾圧が行われており、今回のガザへの攻撃がその一環として行われている。

イスラエルは、国内、占領地での危機的な状況が続いており、中東における政治関係の変化の中で、これまで通りには、行くことができない。また、パレスチナにとっては政治的に有利な状況が生まれている。

投稿日時：2023 年 5 月 10 日｜ 11:25（PFLP の HP より）

ムハマッド・シャブル・アルリファイ

現在の中東の政治状況は、政治レベルでは、それぞれが政治的な目標と利益を宣言した矛盾する 2 つの陣営が支配している。その結果、抵抗勢力陣営と反動的なシオニスト帝国主義陣営という政治状況が明確に見えている。両者の対立は、旧ソ連を中心とする社会主義陣営と米国を中心とする資本主義陣営との関係を支配していた対立に似ている。連合国に有利に終わった第二次世界大戦後、両陣営は形成され、地域紛争に介入することで国際主権をめぐって争っていたが、両陣営間で軍事的対立は起こらなかった。両陣営の関係は、政治・知的対立と紛争介入競争に基づく冷戦状態に支配されたままであった。...

ソ連時代に国際的なレベルで二つの体制、二つの対極の間に存在した政治的関係で起こったことは、中東のレベルでもそれに近いものがあり、イランを中心とするいわゆる抵抗陣営と反動的なシオニスト帝国主義陣営がある、 ガザ地区がシオニストによって受けた戦争は、壊滅的で残酷であり、そのうちの 1 つは、北方戦線のヒズボラやイランの参加なしに 50 日間続いた。 ！

実際、アラブとイスラムの大衆は、帝国主義的な植民地西側諸国（その筆頭は人種差別主義者のシオニストであるアメリカ合衆国と傀儡のアラブ反動政権）に完全に敵対する愛国的、民族主義的立場を依然として堅持しており、すべての政党を持つ抵抗陣が、シオニスト敵に対する諸勢力の統一という、利害から離れた原則への帰属に動機づけられて、単一の戦線の枠内で闘いに従事することが期待された。ヘブロンのイブラヒミ・モスクに起こったように、アル・アクサ・モスクを時間的・空間的に分割しようとする挑発と侵略を日常的に行うなど、この包括的な対立を後押しする重要なタイトルが現在可能となっている。 この包括的な対決の結果、特に、昨日の夜から午後にかけて空爆を受けた占領地ヨルダン川西岸とガザ地区で多くの殉教者が倒れ、その結果、13 人以上の殉教者が生まれた。

もしこの対決が、ファシスト・イスラエル政府によって実施された暗殺政策に対する抵抗勢力の結束によって行われるなら、この地域の政治地図は、シオニスト団体とパレスチナ人の間の戦争の枠組みの中で、必然的に抵抗勢力に有利に形成されることになるであろう。

投稿日：2023 年 5 月 10 日｜ 11:24（PFLP の HP より）

アクラム・アタラー

当然のことながら、イスラエルのエルサレム戦略・安全保障研究所は、直ちに戦争に備えるべきと警告した！その理由については？報告書は、警告の背景となった理由をすべて説明している。それは、イスラエルのイメージと免疫力に十分な変化をもたらしたからである。イスラエルに大きな優位を保つパワーバランスに照らして、近隣の危険性を直接的な脅威として扱わなかったからである。

何が変わって、研究所は警戒レベルを上げたのか。

同研究所は、前世紀 20 年代末にジャボチンスキーが見ていた鉄のカーテンにある程度の亀裂を生じさせ、世紀半ばにベングリオンがそれを立て、相続人がそれを維持し、現在浸食要因によって侵食されつつある点からその答えを提示しています。

同研究所は、「司法改革をめぐる闘争は、イスラエル国家に甚大な損害を与えた」と述べている。政治レベルでは、アメリカからの支持のイメージが揺らぎ、経済レベルでは、国家の信用格付けが侵食されている。″と述べています。

また、同国の最重要部門に言及し、「イスラエル国を世界で最も豊かな 20 カ国のリストに引き上げた主要な成長エンジンであるハイテク部門は、資本の確保がますます困難になっているようだ」と述べています。

同研究所は、国家免疫力の低下の原因の一つとして、イスラエル社会の亀裂を指摘している：″イスラエルの言論は過激さを増し、何よりもイスラエル軍が政治闘争の道具として使われたことで、国民の結束にひびが入った″。また、″イスラエルは社会として海外に現れている ″と付け加えています。引き裂かれ、機能を失ったイスラエルの戦略的存在に望みを託したアブラハム協定を結んだ国々を含む友好国は、内部対立を驚きの目で見ており、イスラエル国家に軍事力を解体しかねない脅威があることを証言しているようです。

″蜘蛛の巣 ″の理論＊によれば、イスラエルの敵はますます自信を深めており、ユダヤ国家の内部の緊張が実際に自滅の文脈につながることを予期しているのである。同研究所はまた、「地域的、世界的なバランスの変化により、イスラエルにとっての戦略的環境は問題となり、数十年前よりもさらに危険になっている」と警告している。

＊蜘蛛の巣理論は、経済学や国際関係における理論の一つです。この理論は、地域間の経済的な関係や経済のグローバル化を説明するために用いられます。

蜘蛛の巣理論では、蜘蛛の巣が地域間の経済的なつながりや相互依存関係を表していると考えられます。蜘蛛の巣は、蜘蛛が獲物を捕まえるために網を張り、それぞれの糸が他の糸と絡み合っています。同様に、地域間の経済的なつながりも相互に絡み合っており、一つの地域の経済的な変化が他の地域に波及すると考えられます。蜘蛛の巣理論は、特に国際貿易や投資の分野でよく用いられます。一つの国や地域が他の国や地域との経済的な関係を築くと、それによって相互依存関係が生まれ、経済的な変化が伝播することがあります。また、蜘蛛の巣理論は、グローバルな価値チェーンや生産ネットワークを理解するためにも役立ちます。異なる国や地域が特定の部品や製品の生産に関与し、それが他の地域との間で取引されることで、グローバルな経済システムが形成されています。

ただし、蜘蛛の巣理論は単純化されたモデルであり、実際の経済や国際関係はより複雑な要素を含んでいます。さまざまな要因や政治的な要素が経済的なつながりに影響を与えることもあります。ですので、この理論は経済や国際関係の解釈において一つの視点として参考にされることがありますが、完全な説明や予測を提供するものではありません。

同研究所は、イスラエルにとって戦略的環境がますます問題になっている理由を詳細に説明し、提示している：″イランは、内部の混乱を効果的に抑制しているためか、ロシアや中国との戦略的なつながりがあり、それがサウジアラビアを中心とするアラブ諸国との協定に通じているためか、自分自身に自信を持っている。″

″イランの同盟国であるシリアは、アラブ連盟に近づきつつある。また、テヘランは、米国がウクライナや中国など別の場所で夢中になっていることを理解し、中東での役割を低下させながら、核兵器のための放射性物質の収集に向けて前進し続けている。″

イスラエルとその周辺の内実について、研究所の警告にあったことほど真実に近い光を当てられるものはない。これらの要因がすべて重なって抑止力の低下を招き、イスラエルの敵対的環境での生活能力に関するベングリオンの初期の疑問を再び提起し、一つの国に住む上で矛盾するほど異なる文化を持つ移民集団を融合させることは可能で、統一社会としての共存は明白となった。過激派政権の 100 日間は、イスラエルを 70 年以上後退させ、イスラエル人が永遠に埋もれたと信じていた歴史の疑問を、それに依拠した 3 つの要因に照らして再掘り起こした。

イスラエル人を安心させた 3 つの要因とは、イスラエルの敵を抑止できる強力な軍隊、強力な司法がその要素をバランスよく管理する結束力のある社会、そして第 3 の要因は、イスラエルを取り巻く国々の弱さと脆さであった。

ここ数十年の間に、さまざまな変化が起こったことが明らかになっています。確かにそれらは突然起こったものではなく、長年にわたる静かな発展の結果であったのだが、前政権はそれを披露してしまった。まとまりのある社会が、今や共通項を持たない 2 つの人口集団に分かれ、国家のアイデンティティと地域環境をめぐって争っている。イスラエルに敵対する勢力や運動がより強く、より大胆にイスラエルに対峙するように変化している。イスラエルが以前のように戦争を促進しなくなったように、レバノンからミサイルが発射されて起きたこと、その時の論争、その後のイスラエルの慎重な対応のあり方は、イスラエルの戦争に対する慎重な計算を具現化している。イスラエル軍についても、一部の兵士が兵役拒否を警告する論争が起きているが、要するに、強い軍隊は、結束力のある社会と強い経済の反映に他ならず、その両方がイスラエルの亀裂によって揺らいでいる。

センターが発した警告は、複数の元兵士や複数の作家が語ったことと似ており、イスラエルが生きている論争や雰囲気、イスラエルの公共空間でモニターできるつっかえた状態を反映しており、これらはすべて、抑止力の侵食感やイスラエルの優柔不断な困惑と結びついています。沈黙を続け､戦争に行くことを避け､その代償として、イスラエルの敵は沈黙は弱さの結果だと読み、だから大胆さを増すということと、抑止力を回復させるということの間で、沈黙の状態から脱却して戦争に行くことを呼び、その結果は内外の変数とリンクし、多面戦争の形態はそれをギャランティにしない、結果はより破滅的で抑止力をさらに侵食しうる。

この議論はイスラエルでは解決されていないが、まだピークに立っており、ここではすべての警告が重要であることに変わりはない。イスラエルは抑止力と力という要素を持ち続けてきたが、イスラエルは力を回復するために戦争を始めるということなのだろうか。それとも、他者から奇襲されるような攻撃に備えているのだろうか。

大きな違いがあります。その根拠は、イスラエルの強さが昔とは違うということです．．．。時代は変わっている！

投稿日時：2023 年 5 月 10 日｜ 16:01（PFLP の HP より）

アライン・アライン

ヨルダン川西岸地区、ガザ地区、1948 年に占領された地域、そしてディアスポラのパレスチナ人大衆は、昨日火曜日、占領軍がガザ地区で行った犯罪－虐殺－に対する抵抗勢力の反応を待っていました。彼らは、ジハード・シェイカー・ガンナム（アル・カッサム旅団の軍事評議会書記）、ハリル・サレハ・アル・バフティニー（軍事評議会メンバーで北部セクターの司令官）、タリク・エズ・エルディン（西岸での軍事行動のリーダーの一人）です。すべての党派は、殉教者の葬列を終えた後、今日私たちが記念する栄光の記憶である「サイフ・クッズの戦い」の前に立つことになった。

そして、対応が行われないと、アナリストやオブザーバーは、私はその中の貧しい奴隷ですが、メディアやアラブの衛星チャンネルに、対応の遅れには正当な理由があるのだと話し始めました：

- 抵抗勢力は、急いだりポピュリズムに流れたりすることに関心はなく、むしろ、実測された対応について、その場所やミサイルの射程の観点から、効果的かつ有効で、（40 機の）シオニスト軍機が参加した空襲で殉じた幹部や民間人への復讐にふさわしいものにするために手配したいのです。.

- 合同作戦室にいる抵抗勢力各派は、西岸地区の軍部や抵抗軸と連絡を取り合っており、戦場の統一の枠内で対応が統一されるようにしている。

- 合同作戦室は、軍事的対応を検討する前に、心理戦の文脈でシオニスト主体の状況を混乱させるために、対応を遅らせたいと考えている。特に、対応の遅れは、「スデロット」入植地から数千人の入植者を避難させるなど、シオニスト主体に影響を与えるからである、 学校での教育の停止、占領地パレスチナの南部地域での列車の移動停止、ロド空港での作業の停止と北部線路への飛行機の迂回など、実体への影響は深刻で、イスラエルのテレビのチャンネル（12）は、次のパレスティナ人の反応を恐れて実体を覆う麻痺について語り始めたほどである。

数人の軍事指導者が殉教し、多数の民間人が死傷してから－記事を書いている時点で -60 時間以上が経過したが、これによってパレスチナの大衆は落ち着かない－不満とは言わない－状態で生活し、合同作戦室の枠内で論争が起こるかもしれないという恐怖を表明している、以前、ジハード運動に属するアルクード旅団が、その指導者の一部の暗殺や指導者の逮捕に対応したとき、ハマスが参加せずに対応したように、ハマスが対応に参加しないことを恐れて、対応の規模について、またその恐怖からだ。

我々は悲観的な読みに走りすぎず、敵のメディアが撒く毒に惑わされず、ハマスが軍事的対応に参加せず、特にハマスのトップである「イスマイル・ハニエ」が対応を誓ったことから、（イスラエルが）その最も著名な軍事指導者を暗殺すると脅してきたとする。他のレジスタンス諸派とのこの犯罪について、また、人民戦線を筆頭とするすべてのレジスタンス諸派が、虐殺に対応する用意があることを確認し、敵がイスラム聖戦運動だけを狙い撃ちすることを許さないということである。

敵シオニストは、この虐殺によって、ジハード運動と抵抗勢力全般に対する軍事攻撃を開始するだけでなく、むしろ、市民を直接、プログラム的に標的とすることによって、パレスチナ市民の意識を焼灼し、市民の抵抗勢力への結集を阻止し、派閥が民衆の培養器なしになることを目指したのである、 殉教者の葬儀に参加した数万人の男性、特に若い男性、子供、女性が、棺を肩に担いでガザの殉教者墓地に向かった。この文脈で敵をターゲットにしても失敗した。これまで起こったことは、入

植者の意識の叫びに代表される逆で、今やほとんどの時間を避難所で過ごしている。学校や市場を閉鎖し、列車を止めた後、など。

私たちを次の対応に楽観的にさせるのは、私たちの希望と楽観が裏切られることがないように、ハマスも含めたすべての党派が、この作戦から戦犯ネタニヤフの目標を悟り、理解していることである。彼が西岸のレジスタンスが足下に踏みつけた抑止力を回復したいこと、彼が司法制度におけるクーデターをめぐる分裂から生じる内部危機から逃れたいことが目標である。また、ファシストの盟友であるベン＝グヴィールやスモトリッチに、自分は彼らよりも右翼でファシストであると断言したいこと、最近の世論調査で低下したリクード党のイメージを回復したいこと、パレスチナ人の血で購うことで、元首相「ヤイル・ラピード」と元戦争大臣「ベニー・ガンツ」が率いるシオニスト野党と対して、自分は両氏よりもファシストだということを示すことであろう。

私の予想では、反応が来るのは、反応しないことが、参加する作戦室の枠組みの中での抵抗党派の結束の核心を突くからであり、党派の結束を叩くことは、アリーナの結束の低下につながるからである、 そして、敵が失った抑止力を回復させ、交戦規則を変更するという任務を容易にし、ネタニヤフ首相がこの大虐殺を実行する際に想定した西岸地区での逮捕と殺害において敵の手をより多く離すことであり彼がこの大虐殺を行うにあたって思い描いた他の目標を達成できるようにします。 .. これは各党派がよく認識していることであり ... 特にハマスの指導部とガザ地区のトップ「ヤヒア・シンワル」が認識していることである。

投稿：2023 年 4 月 29 日｜ 13:24（PFLP の HP より）

ナワフ・アル＝ゼロ

多くのパレスチナ人やその他の人々は、「パレスチナの女性や子供、若者や老人に対するこのシオニストの大量虐殺戦争は、いつまで続くのだろうか！虐殺、殉教者、負傷者、拘留者、そして取り壊しや破壊を止めないシオニストのブルドーザーに満ちたこのパレスチナの光景を、私たちはいつまで追い続けるのでしょうか？この恐ろしいパレスチナの光景はいつまで続くのでしょうか？このすべての背後にある本当のシオニストの目的は何なのか？

ベングリオン大学の政治地理学教授であるオレン・イフトチェルは、「パレスチナ人に対する殺戮と破壊の光景は恐ろしい」と認め、「これらの戦争は、パレスチナの時間を沈黙させることに代表される極端で残忍な目標を採用したイスラエルの地域プロジェクトと行動の継続」、つまり、この国の全歴史を抹消することであるとしている。歴史を沈黙させることは、パレスチナ人の居場所を消すことにもなり、それに伴い、彼らの正当性と共に存在する完全な政治的権利の消去にもなり、イスラエルからの好意でもありません。″例えば、イスラエルのガザに対する戦争は、ロケットを止めるための作戦や、選挙のための人物磨きや、抑止力の回復の試みだけではなく、帝国の試みでもありません。″とも付け加えています。（イスラエル系アメリカ人）を支配するためのものであるが、これらすべてを組み合わせたものであり、また、最近のこの場所の歴史に関するあらゆる言及を否定し、消し去り、消去するという長期戦略の継続であり、この消去プロジェクトはほとんどすべての人：イスラエルの政治家、アーティスト、メディア、大学の研究者や知識人に関わっている。″ イスラエルの老政治家、シモン・ペレスは、入植とイスラエルの核計画の先駆者の一人で、″67 年代にはパレスチナ人はいなかった ″というゴルダ・メアの言葉を繰り返すことを止めなかった。

この背景－シオニストの戦略的根拠－に対して、人種差別主義者のシオニスト大臣スモトリッチは、パリから「パレスチナ人という民族は存在しない」と宣言し、「パレスチナ人と呼ばれているものは、シオニスト運動と戦うためにアラブ人が発明した異端だ」と主張し、さらに：「パレスチナ人は前世紀の発明であり、彼や彼の先祖みたいな人種主義者たちが本当のパレスチナ人である、」（２０２３年３月２０日）と付け加えた時、大口の爆弾を爆発させたのです。この人種差別ファシストの発言によって、スモトリッチはナクバ以前から今日までの人種差別ファシストのシオニズムのファイル全体を開いた。シオニストの指導者やラビたちは皆、「パレスチナ人の消滅」という夢に眠り、目覚めている . . . ！

このシオニストの夢の背景には、″パレスチナ人が残る限り、イスラエルのパレスチナに対する支配と主権は完全にはならず、パレスチナ人が喉元に棘のように残る限り、イスラエルに安全な未来はない ″と考えるシオニストの思想的、政治的、戦略的背景があります。その中には、多くの文献やファトワ＊がある。そのおかげで、彼らはパレスチナ・アラブの血を受け継ぐことができるのです。こうした背景は、政治、宗教、軍事、学術、メディアなど、すべての指導者に当てはまる。ヘルツルに始まり、パレスチナ人の存在を否定したベン＝グリオンやゴルダ・メア、シャミア、ラビン、ペレス、ラビ長を経て、ネタニヤフ、ベン＝グヴィール、スモトリッチに至るまで . . . 。これが発足以来の実情である。そして、この人種差別的、ファシスト的、大量虐殺的、廃人的な傾向は、実体がなくなるまで続くだろう。

＊ファトワー（アラビア語： fatwā, 複数形 fatāwā）は、イスラム教（イスラーム）においてイスラム法学に基づいて発令される勧告、布告、見解、裁断のこと。

このような文脈で彼らのテロ廃止論的な文献の記録の中に、イスラエルの「シャス」党の精神的指導者であるオヴァディア・ユセフ首席ラビがいた。パレスチナ人のようにイスラエルを憎む者たちがこの世から消える」という希望と願いを表明するために、イスラエル軍のラジオが放送した声明の中で、″パレスチナ人のようにイスラエルを憎むすべての悪人は、地球の表面から消え、ペストに襲われるだろう ″と付け加えています。クネセットのシャス党のメンバーであるニシム・ゼフ氏は、「チーフラビがタルムードで、平和のためにイスラエルの敵が消えることを望むために、このようなフレーズを使っていたことは注目に値する」と述べた。
さらに特筆すべきは、ラビ・ジョセフがアラブ人を ″愚かで愚かで、彼らの宗教は彼らと同じくらい嫌なものだ ″と表現して、何度も攻撃していたことである。彼は、″アラブ人はすべて殺して絶滅させなければならないゴキブリだ ″と言い、″毒蛇よりも悪い ″と表現した。ユダヤ教のラビに ″ミサイルでアラブ人を全滅させる ″と呼びかけ、″地球上からアラブ人を消し去りたい ″と願った。2004 年 8 月には、説教で ″アラブ人を殺すのは、虫や蛇を殺すようなものだ ″と発言しています。ラビ・ユセフはここで、1 世紀半以上前のシオニスト運動の発足以来、シオニストのタクフィール＊とテロのファトワのファイルを私たちに公開し、パレスチナ人とアラブ人を、それが彼らにとっていかなる道徳的、人道的問題も引き起こすことなく、大規模な虐殺を求めるシオニスト大量虐殺思想のファイルを私たちに公開しました。

*Takfīr または takfīr はアラビア語およびイスラム語で、あるイスラム教徒が別のイスラム教徒によってイスラム教から破門されることを意味します。つまり、別のイスラム教徒を背教者であると非難します。この言葉はクルアーンにも □adīth 文献にも見出されません。 ウィキペディア（英語）

第一は、パレスチナ人の一部の人が想像していたように、パレスチナ独立国家の基礎を形成する可能性があるインフラをすべて破壊すること。

第二は、シャロン・ペレス、ベン・エリツァーらの共同戦略の実行によって、パレスチナ人を屈服させ、従属させ、カントンという檻に閉じ込めることである。この戦略には、5 つの主要要素が含まれている：

1- パレスチナのインフラに対する大規模な軍事作戦、封鎖、閉鎖、破壊的な軍事攻撃、および政治家や蜂起活動家の暗殺を行う。

2 ー家屋取り壊し、土地没収、永久閉鎖、長期外出禁止令、危険、あらゆる形態の経済戦争などの政策に加えて、パレスチナの蜂起を弱め、長期的に解体することを目的とした軍事的消耗作戦。

3- 現地に不可逆的な事実を作り出す。

4- パレスチナ自治政府の正当性を剥奪する。

破壊、焼却、虐殺、服従の政策の背後にある 3 つ目の最大のものについては、2001 年 6 月 21 日の Haaretz 新聞でイスラエルの Meron Benvenisti 教授が確認したように、「パレスチナのアラブ人他者の消滅の夢」の実現とパレスチナ人の再形成でした。″彼の計画の背後では、

シャロンはパレスチナ人とその正当な指導者を委縮することを目的とした彼の思想のために皆を勧誘することを目指しています〝と彼は言っています。

シャロン－当時－は、自分が起こした予防戦争を通じてパレスチナ人民を置き換え、自分の計画や政治的要求に従って形を変え、改革することを夢見た。このことは、『ガーディアン』紙のジョナサン・フリードランドが、こう書いて説明したときにも確認できた：　シャロンは、パレスチナの人々を消滅させたい、あるいは、現実の人々に対処する必要がないように、別のパレスチナの人々を作り出したいと考えている」。イスラエルのアリエル・シャロン首相は、パレスチナのヤセル・アラファト大統領を殺害しようとしているのだろうか。パレスチナの主」として世界に名を馳せ、民族全体の象徴であるこの男を殺すこと、これがイスラエル首相の方針なのだろうか。

こうしてシャロンは、誇りと尊厳を享受する民族について考えるのではなく、穏やかなパレスチナ民族について考え、想像していた。国家の象徴のリーダーシップではなく、柔軟でしなやかな指導者のリーダーシップの下で、シャロンの夢は実現しなかったが、実現までにどれだけの血が流されるか、誰が知っているだろう？

オックスフォード大学の外交教授で、『鉄の壁』の著者である著名な作家アビ・シュレイムは、凝縮して言及された一連の目標や内容に言及したとき、シャロンの本当の意図を明らかにした。彼は『ヘラルド・トリビューン』紙にこう書いている：〝シャロンの政治的目標は、パレスチナ人が提出することが可能な最大数を殺すことである。〝シャロン本人によれば「彼らは攻撃されなければならず、我々は彼らに大きな損失を与えなければならない...」と。

イスラエル人は、治安とテロのブルドーザーであるシャロン将軍を、パレスチナ人を服従させ、その力と意志を断ち切る最後の希望と考えた。シャロンが惨めに達成できなかったことは、彼らの計算の中にはなかった。

私たちはこうも言っている：　パレスチナとイスラエルの対立における軍事力のバランス、シャロン時代と今日のネタニヤフ＝スモトリッチ＝ベン・グヴィール時代の間の完全な優勢に代表される、論争の対象にならない最初の大きな明確な事実にもかかわらず、これは上級政治家、将軍、ラビたちのシオニスト・テロリズム思想の要約でもあるのです。

シャロンが失敗し、人民とパレスチナ国家プロジェクトの廃止に失敗したように、またラビンが悪夢のような夢を実現できなかったように、彼らの首席ラビであるオバダイア・ヨセフの夢は聞き入れられず、歴史のごみ箱に入るだろう...　そして今日の実体の支配グループは失望するだろう：ネタニヤフ － スモトリッチ － ベン・グヴィール...　シャロンの安全と平穏の理論を破壊し、シャロンの消滅と国家独立プロジェクトの消滅という夢を捨てることに成功したパレスチナの人々は、戦争、封鎖、紐帯にもかかわらず、アカウントを回し、彼らの夢と願望を打ち砕き、今日まで紛争場面に残っている　不可避な勝利だ。

投稿日：2023年05月02日｜10:05（PFLPのHPより）

タシン・ハラビ

昨年4月22日、イスラエル占領軍の元軍事大学司令官で、41年間勤務したゲルション・ハコヘン退役少将は、2002年4月の同日、軍事作戦〝The Defensive Wall〟の実施を終えたアリエル・シャロン元首相が語った言葉を思い出すことにした。〝防御の壁〟はヨルダン川西岸とガザ地区の武装したパレスチナの抵抗勢力を標的としたもので、シャロンはジェニンとヨルダン川西岸の他の村で大虐殺を行った。ハコヘンはこの日、イスラエルの新聞「Makor Rishon」に次のような記事を掲載した：　安全保障問題や外交政策を担当するクネセト議会は、この軍事作戦に関する報告を聞くための会合を開き、その中でシャロンは、ガザ地区の一部の入植地の保護が困難であるため撤退するよう求める一部の軍人たちの批判を取り上げた。そしてシャロンは委員会で、「ガザのネツァリム入植地から撤退する者は、テルアビブ市から撤退する者のようになる」と発言した。この入植地は1984年に設立された。

また、「1 つの入植地からの撤退は、武装したパレスチナ人を刺激し､我々への圧力を高めることになる。したがって、入植の重要性を信じるすべての人は、ネツァリムからの撤退を拒否すべきである。″ ネツァリムは、実体が首都とみなすテルアビブで降伏するようなもので、彼はこの介入を通じて入植を奨励し、入植地の存続を堅持したかったのです｡このように言い続けて 3 年､2005 年 8 月、パレスチナの抵抗勢力は、首相在任中のシャロン自身に、ガザ地区全域からの無条件撤退とネツァリム入植地を含むすべての入植地の解体、占領軍の活用を決断させ、魔法は魔法使いに逆戻りしました。入植者をストリップから移送する際、また、20 年以上の間にガザ地区に設立した 22 の入植地を破壊する際、ストリップの勝者がその恩恵を受けないようにするためである。

このような明確な方法での抵抗の勝利は、占領軍の能力に多くの侵食要因を生み出し、占領軍と入植者の間の信頼を損なった。彼らは、自分たちを守ることを任務とする軍が、自分たちの意思に反して、家具とともに、入植地の住宅ユニットや施設、占領地を拡張した土地から避難させることを知り、軍隊との信頼関係が揺らいでしまった。一方では、双方に敗北の精神が生まれ、他方ではそれに伴う道徳的弱さが生まれた。

そして、北から南から中央まで、様々な軍事的対峙の場で、その能力を止めることができない主体に対して、抵抗の継続とその能力の増大が年々進み、占領軍の能力を侵食する要因が増大し、移民以外に出口のない行き詰まりを前にして、その内部に恐怖と士気の低下という雰囲気が蔓延した。入植者の反対、あるいは徴兵者の戦闘実戦回避は年々進んでおり、これはイスラエルの軍事問題専門のアナリスト、リラック・ショヴァルが 4 月 23 日にイスラエルの新聞「イスラエル・ハヨム」に発表した分析に現れたもので、彼は「軍の徴兵者の戦闘実戦への意欲はない。 今も年々減少し続けている」と述べている。内部調査によると、戦闘行為を望まない男性の新兵の割合は 30%に達し、女性の新兵は 52%に達したという。

リラッハは、新兵が戦闘任務に就く意欲を持てないことが激減していることに言及する。占領軍の兵役は、精神疾患や身体障害の場合を除き、男女ともに例外なく強制されており、しばしば新兵の何割かは、占領軍のあらゆる形態の兵役を避けるために、これらの疾患を患っていると主張する。過去数十年と比較して、1982 年から 2005 年の戦争で占領軍が受けた敗北とその後の抵抗軸とそれに対峙する複数の戦線での能力不足のために戦闘兵役忌避者の割合は依然として著しく増加していると述べている。

パレスチナ日誌

1 月 30 日

・占領軍は、ガザ内にドローンが墜落したことを確認
・ベイト・ハニアで 6 人のエルサレム市民を逮捕。
・入植者たちは、西岸で、家を破壊し、パレスチナ人たちを攻撃
・入植者たちは、ジャルドの町を攻撃した。
・イブラヒムモスクの近くで、市民が攻撃され負傷した。
・占領軍のブルドーザーがジャバルムカベルとシリワンの町を襲撃した。
・ブリンケンがテルアビブに到着
・ヘブロンで、占領軍の銃撃で殉教者。
・占領軍、ツバスの高校生を逮捕した。
・クネセットは、エルサレムと 48 年領内のパレスチナ人獄中者の市民権、居住権を無効にする法案が承認された。
・ナブルス、入植者たちが、フェンスと農業設備を破壊した。

1 月 31 日

・3 日目、占領軍はジェリコの包囲を続けている。
・ガザで獄中者を支持するデモ
・シリワンの殉教者アブ・ラモウズの家が襲撃され、テントが取り壊され、旗が没収した。
・サルフィットの西で、11 軒の工事の停止が通告された。
・4 日目、占領軍、アリハを包囲をしている。
・エルサレム、ジャバル・ムカベルの村で、衝突が勃発
・ジャバル・ムカベルで取り壊し政策に拒否するストライキ、入り口を石と油で封鎖。
・占領軍は西岸とエルサレムで、逮捕キャンペーンを開始

2 月 1 日

・西岸とエルサレムで襲撃と逮捕
・5 日目、占領軍は、ジェリコの包囲を続けている。
・ジェリコで 2 人の市民が逮捕された。
・占領当局は、デイル･バルウトの農業施設を取り壊した。
・占領当局は、スール・バへ―ルとシリワンで施設を取

り壊した・
・基金を没収：占領軍は、カリムとマヘル・ユニスの家を襲撃
・占領裁判所は、活動家ジョナサン・ポルアクの拘束を延長した。
・占領軍は、ジェリコの南の軍事検問所で、青年を逮捕した。

2月2日

・西岸で大規模な逮捕キャンペーン
・占領軍の航空機が、ガザに一連の爆撃を行った。
・ガザ東部のフィールドコントロールポイントで占領軍が銃撃
・入植者が、旧エルサレムの教会内の像を破壊した。
・ネゲブで、家の取り壊し、更地化、木々の根こそぎ
・ナブルスの南のドマの2軒の家を取り壊し
・ジェニンの西での占領軍との衝突で、呼吸困難者と青年が逮捕された。
・サルフィットで、占領軍は、青年を逮捕した。
・ムスタファ・バルグティは、ドイツ社民党の代表団と会談した。

2月3日

・占領軍は、ヘブロンの3人の市民を逮捕
・教会世界評議会は、パレスチナとの連帯を確認した。
・占領軍は、ジェニンの南、マシリエの市民を逮捕。
・スーダンの諸党は、ハルツームのイスラエルとの正常化の方向を拒否
・占領裁判所は、シェハデー家の退去の決定を凍結することを拒否した。
・占領軍は、ジェリコの南の検問所で、市民を逮捕した。

2月4日

・入植者たちは、ナブロスの南の土地をフェンスで囲んだ。
・占領軍のベイトダジャンの行進の弾圧の結果呼吸困難者
・カフル・カッダムの行進の弾圧で、3人が銃弾で負傷、数十人が呼吸困難に
・占領当局は、19年投獄されていたラファの獄中者を釈放した。
・アルジャラマでの占領軍との衝突で、呼吸困難者。
・ラマラの西で、イスラエルの車に銃撃
・ハワラ検問所で、占領軍の銃弾で、殉教
・デニシェキャンプの近くで、青年たちが一人の入植者を攻撃し、武器を奪った。
・占領当局は、ハマスによるイスラエル内での爆弾攻撃を阻止した。
・占領軍は、ジェリコ市への襲撃を再開
・ジェリコ：アカバト・ジャベールキャンプの家を包囲したあと占領軍の銃撃で負傷者
・8日目のジェリコへの包囲を継続している。

2月5日

・国連は、イスラエルとパレスチナに非合理的なエスカレーションを終わらすことを呼びかけ。
・軍事検問所で、占領軍は、カバティアの市民を攻撃した。
・エルサレムで、占領軍は、2人の女性を負傷させ、市民と息子を逮捕した。
・占領軍は、カランディア検問所で、一家を攻撃し、そのうちの2人を逮捕した。
・占領軍は、デイル・アルバラの東で、催涙弾を発射した。
・9日目、ジェリコの包囲を占領軍は継続している。
・西岸での逮捕、その中にはイスラム聖戦の指導者、ハデル・アドナンが含まれている。
・占領軍は、バカ・アルガルビヤの獄中者ワリド・ダッカの妻の家を襲撃した。
・入植者たちは、サルフィットの西の市民の土地を攻撃

2月6日

・占領当局は、サルフィットのデラスティアの土地45デュナムを没収することを通知
・サルフィットの西で、9通の建設中止の通知
・入植者たちは、サルフィットの西で市民の土地を攻撃
・ネタニヤフは、ガザ国境のハノン入植地の創設に合意
・婦人を含む西岸での逮捕
・ガザ国境を越えた2人が逮捕された。
・エルサレムの旧市での警戒と青年逮捕。

2月7日

・マルダの村で占領軍のブルドーザーが土地を更地にし、オリーブの樹を根こそぎにした。
・入植者たちは、シェイク・ジャラの土地に苗を植えた。
・占領軍は、ジャバル・アルムカベルの村を襲撃
・ナブルスで占領軍の銃弾で少年が殺された。
・占領軍は、オベイディアの町を襲撃
・ジェリコの西で、入植者たちが、羊飼いを攻撃
・シリワン：アルタワウリ地区の部屋を占領自治体が取り壊した。

2月8日

・西岸での逮捕キャンペーン、ほとんどはジェニンから
・占領軍は、デイル・アルバラの土地に向けて水門を開けた。
・西岸での逮捕

2月9日

・占領当局は、シェイク・ナジェ・バキラトの追放を更新した。
・エスカレーションの可能性の準備で、占領軍は、4 つの予備大隊を招集することを決定した。
・西岸での逮捕
・シンベトは、イスラム聖戦に弾薬を密輸した容疑で 5 人のイスラエル人を逮捕
・ヘブロンの南、アルファラ難民キャンプ近くで、占領軍の銃弾で、青年が負傷した。
・ヘブロンの南で占領軍に青年が撃ち殺された。
2 月 10 日
・入植者たちは、北部ヨルダン渓谷でのキリベト・アルデイルへ入植者たちが襲撃
・ヤッタの獄中者アハメド・アブアリが死去
・イスラエル警察のチーフラビは武装を呼びかけ
・占領軍は、カルキリヤの少年を逮捕。
・エルサレムのひき殺し作戦で、2 人の入植者が死亡、6 人が負傷
・占領軍兵士は、検問で、テルルメイダの数人の住人を拘束した。
・エルサレムで反ネタニヤフデモ、イスラエル警察は 2 人を逮捕。
・占領軍はベイト・リマの青年を逮捕
・ジェニンで、青年が占領軍の銃弾で負傷し、他が逮捕された。
・サルフィットで、入植者たちが、６頭の羊を盗んだ。
・アルイサウィヤで殉教者の妻を含めた逮捕者と対峙
・ひき殺し作戦の後、占領軍は、エルサレムに部隊を増強することを決定した。
・ベイト・ウマールの衝突で、青年が銃弾で負傷し、数十人が呼吸困難に
・アルイサウィヤの殉教者カラケの家が急襲された。
・カフル・カッダムの行進の弾圧で 2 人が撃たれ、数十人が呼吸困難に
・占領軍は、カフル・カリルの二人の青年が逮捕された。ナブロスの南
・ベイト・ダジャンの行進への弾圧で負傷者。
2 月 11 日
・ナビ・サレの入り口で、衝突
・6 週目、数千のイスラエル人が、ネタニヤフ政府に反対してデモ
・サルフィットの北で、入植者たちが、市民の車を攻撃
・ナブルスの南での入植者の攻撃で 2 人の市民が負傷した。
・殉教者カラケの家族は、アルツルの自宅を時間以内に撤去することを求められた。
・殉教者カラケの親族 10 人が逮捕され、捜索は続く。
2 月 12 日
・テル・メイダにつながる検問所の一つを占領軍は閉鎖した。
・占領軍は、西岸の警戒のレベルを高めた
・占領当局は、アナタの青年を逮捕し、アルアクサから追放した。
・サルフィットの南で、入植者たちが農業部屋を破壊し、オリーブの樹の苗を根こそぎにした。
・ジェリコの西で、入植者たちが羊飼いを攻撃。
・ヤスフ村の土地で、入植者たちは、20 本のオリーブの樹を根こそぎにし、伐採した。
・アッバース大統領カイロに到着、エルサレム支援会議に参加のため。
・シリワン作戦の実行者のアパートを封鎖を決定。
・西岸での逮捕
・殉教者カラケの家が封鎖された。
・エルサレムの町々に襲撃と侵攻
・息子を逮捕してから二週間後、占領軍はシリワンで両親を逮捕した。
・民主戦線は、ベングヴィ―ルのエルサレムのユダヤ化の促進計画に対峙するように呼び掛け。
・ジェニンで占領軍の銃撃で、殉教者。
・EU は、入植者の暴力を非難
2 月 13 日
・占領当局は、北部西岸の 4 つの入植地の撤去をキャンセルする法律を批准した。
・エルサレムと西岸の逮捕で、殉教者の母親も逮捕した。
・ジャバル・ムカベルで占領軍は家を取り壊し、青年を逮捕した。
・ジャバル・ムカベルの取り壊し作業の間、数十人の逮捕者と複数の逮捕者
・ガザのレジスタンスの拠点に空爆
・ナブルスへの占領軍の襲撃で、一人の殉教者と多数の負傷者。
・イスラエル内閣は、西岸の 9 つの入植地前哨地の併合とベン＝グヴィ―ルの決定を決定した。
・ムスタファ・バルグティ：占領者は、パレスチナ民衆に対して公然と戦争を仕掛けている。
・人民抵抗運動は、すべての接触点での対峙のペースを上げるように呼び掛け
2 月 14 日
・デモ：クネセットは、クネセットは、司法システムを弱める計画を承認

・国連の専門家は、西岸での家屋の取り壊しを止める政策を呼びかけ。
・諸勢力は、人民抵抗を拡大することを呼びかけ
・入植者が刺された後アルアクサの門が閉じられた。
・米国は、9 つの入植地の合法化に反対している。
・シュファット難民キャンプで、占領軍の銃弾で青年が負傷した。
・刺殺作戦の実行の 2 人の容疑者、占領軍は、アル―ザルバニとデベロッパーの家が捜索さった。
・子供が逮捕された。兵士が刺殺作戦で殺された。
・獄中者たちは、ラマダンの最初の日に無期限ハンストを開始することを決定した。
・占領当局は、スール・バへ―ルの 6 人の青年の拘束を延長した。
・占領当局は、北部ヨルダン渓谷で、居住設備の撤去を通告
・イスラエルは、ベツレヘムの西に１０００戸の入植地住宅の建設を承認するつもりである。
・ネタニヤフとベン＝グヴィ―ルの間で、エルサレムの建物取り壊しの拒否で対立
・イスラエル当局は、アクレの４軒の家を取り壊した。
・占領自治体は、シリワンのバラックを取り壊した。
・重傷者、西岸での逮捕と捜索

2 月 15 日

・占領当局は、ジャーナリストのラマ・ゴーシェの自宅軟禁を延長した。
・刺殺作戦を実行した容疑、子供のズルバニの拘束の延長と家族の釈放を行った。
・獄中者を支援するデモがガザで行われた。
・ベイト・ウマールでの占領軍との衝突で窒息者
・エルサレム占領当局は、バス停の要塞化を決定。
・イスラエルの閣僚：入植地建設のすべての制限を取り除く
・占領軍は、カラワト・バニ・ハッサンの 15 人の市民を逮捕した。
・シュファットの街で、商業施設が取り壊された。
・入植者たちが、オリフの街を攻撃し、車を燃やした。
・北部ガザの民族主義勢力は、獄中者と連帯する大規模なイベントを組織した。
・イスラエルは欧州議会の議員のパレスチナ訪問を阻止した。

2 月 16 日

・日本がパレスチナに 4 千万ドルの援助を提供
・ジェニンで占領軍は市民を逮捕し、建設の停止の通告をした。
・ハマスは、占領当局が国籍はく奪法を承認したことを非難。
・ガザのファタハは、国籍はく奪法は、土地の所有者たちに対する犯罪を浄化するもの。
・占領当局は、殉教者ムハマッド・アルジャバリの家を取り壊すことを決定した。
・占領軍は、西岸で逮捕キャンペーン開始を開始した。
・二人の殺害の後で、ロッドで全面スト
・ジェリコの西で、入植者たちが市民の家々の間で、羊に草を食べさせている。
・213 回目のアルアルキブ村の取り壊し

2 月 17 日

・イサウィヤで、取り壊し、建設の中止の通告
・ベイト・ウマールの 2 人の青年が逮捕された。
・占領軍兵士たちは、スタングリネードで、市民の葬儀を攻撃
・占領軍は、ジェニンのキャンプの 3 人の青年を逮捕し、配管を壊した。
・占領軍は、ハーン・ユニスの農民にガス弾を発射
・ベツレヘムで、獄中者支援をスタンディング
・ガザ：ハマスは、獄中者とエルサレムと西岸と連帯するスタンディングを組織した。
・金曜礼拝の後、占領軍は、ワディ・カッダムの敷地を襲撃し、旗を没収した。
・カフル・カッダムの行進の占領軍による弾圧で、金属弾で 3 人が負傷。

2 月 18 日

・ナブルスの南で入植者の攻撃で、青年が負傷した。
・ベイト・ウマールの衝突で実弾で青年が負傷した。
・ジェニンの南西で、占領軍はブルドーザーを差し押さえ、運転手を逮捕した。
・イスラエル外交官がアフリカ同盟の首脳会議から追い出された。
・ヘブロン、入植者たちが、バブ・アルザウィヤの検問所近くで複数の市民を攻撃
・カランディアの検問所近くで占領軍は子供を逮捕
・エルサレム、占領軍は、市民たちを攻撃し、そのうちの 4 人を逮捕、バブ・アル―アモウドで
・占領軍がイサウィヤを襲撃し、衝突が起こった。

2 月 19 日

・占領軍の東部、中央ガザへの銃撃で、負傷者。
・エルサレム、占領軍は、イサウィヤとシュファット難民キャンプを襲撃した。
・エルサエムの 4 つの街と難民キャンプで市民不服従。ストと道路の封鎖。

・ガザでエルサレムのジャーナリストラマ・ゴシェに連帯するスタンディングが行われた、
・入植者たちは、ヨルダン渓谷で、羊飼いを追いかけた
・ジェニンで、占領軍は、ブルドーザーとトラクターを押収し、運転手を逮捕した。
・ネタニヤフは、イスラエルのタンカーへのイランの攻撃を非難
・占領軍は、青年と子供をエルサレムで逮捕
・入植者たちは、シリワドの農業部屋を荒らした。
・占領軍は、カラマ検問所で、獄中者と元獄中者問題のコミッションの責任者を拘束した。
・ベイト・ウマールで、占領軍は、獄中者との連帯の行進を弾圧した。

2 月 20 日

・占領軍は、獄中者イスラム・ファロウクの家の取り壊しを発表した。
・青年の逮捕、デヘイシャキャンプでの占領軍の襲撃で、負傷者
・占領軍は、シュファットキャンプを襲撃し、学生を爆弾の標的にした。
・数千のイスラエル人が司法改革への投票を阻止するためにデモ
・安保理は、入植地は、平和への障害であると考える。
・ベイト・ウマールの南で、占領軍のガスで、負傷者。

2 月 21 日

・占領軍は、西岸で逮捕と車の押収のキャンペーンを開始した。
・イスラエルは、安保理の ny 通所口についての声明を非難
・サルフィットの西の市民の土地を入植者が攻撃した。

2 月 22 日

・継続的攻撃—獄中者の家々に押し入り、彼らのお金を没収する。
・占領当局は、欧州議会の議員を追放した。
・7 党派は、入植地を非難するプロジェクトからパレスチナが撤退したことを非難
・西岸での逮捕キャンペーン
・ガザ、占領海軍は、4 人の漁師を逮捕し、彼らの船を没収した。
・ナブロスで、占領軍の犯罪を非難する行進がラマラで行われた。
・入植者たちが、ナブルスの南で、労働者を攻撃し、ブルドーザーを燃やした。
・エルサレム、路面電車で、学生たちが、殴られ攻撃された。
・占領軍が、ガザ東部の平和的な行進を標的にした。
・アラブ連盟は、ナブルスの虐殺の責任は、占領当局にあるとした。
・エルサレムで、占領軍との衝突が行った
・抵抗委員会、ナブルスの犯罪に対する対応は、遅れてはならない。
・占領軍は、エルサレムのサラハ・エル—ディン通りで、2 人の青年を逮捕した。
・クネセットの一人の議員が、ナブルスの戦争犯罪に行った流血政府と非難。
・占領軍は、ナビ・サレで、実弾で二人の青年を負傷させた。
・パレスチナは、安保理、アラブ連盟、イスラム協力機構に緊急の会議を開催するように要求。
・ベイトファジャルで、占領軍との衝突で、5 人が負傷した。
・パレスチナは、安保理に国際的な保護をもとめた。
・国連のグテレス事務総長：エルサレムの地位は、一方的な行動で変更することはできない。
・EU は、西岸での暴力のエスカレートに懸念を表明。
・ナブルスで老人が負傷から死亡

2 月 23 日

・占領当局は、警戒レベルを上げた。
・米国は、イスラエルの西岸への襲撃について深い懸念を表明した。
・ベイトウマールでの衝突で、負傷者
・抵抗運動は、ガザ周辺の入植地に向かってミサイルを発射
・ジェニンで占領軍の銃弾で青年が殺された。
・占領軍の航空機がガザの抵抗運動の拠点を爆撃
・占領軍は、刺殺攻撃をしようとしたとして女性を銃撃した。
・クネセットは、獄中者の治療を否定する法の第一読会で承認。
・殉教者の魂に服喪するために西岸の諸都市で、ストライキが行われた。
・エルサレムでもストライキ
・国連の和平プロセスの調整官が、ガザに到着した。
・占領当局は、アルアクサの警備員を逮捕した。
・アルアルウブキャンプでの占領軍との衝突で青年が重傷を負った。
・西岸の占領権力のシェアについて、ガラントとスモトリッチの間で合意
・ライオンズ・ディン：ナブルスの虐殺のあと 50 人がグループに参加した。

歌手 DAM
Gareeb Fi Bladi

君たちに僕は呼びかけよう
君たちの手を握り締めよう
君たちの靴底にある大地に接吻し
僕は言う：僕は君らを取り戻す
君たちに僕の瞳の輝きを贈り
与えよう君たちに心の温かみを
僕が生きる悲劇は
君たちの悲劇の僕の分だ
（タウフィーク－ザイヤードの詩）

船が、みんな行っちまった
心を満たす悲しみを残して
俺らが故郷で望まれない客人となるようにと
物語がひっくり返る
俺らは嫌われたよそ者になったんだ
この土地で逃げ場を探してもだえる運命さ
祖国から遠く離れ
俺らの思いを誰が気にかける？
緩慢な死がこの地に流れている
民主主義のシオニスト体制が俺らを統治する
シオニストだけの民主主義だぜ
アラブ人にとってシオニストとは何だ？
それはあいつらに禁止されたことは俺にも禁止
あいつらに許可されたことは俺に禁止
俺に許可されたことは、俺の望まないこと
要するにシオニストは俺の人生を否定する
俺の存在は消され続ける
歴史は俺の祖先を忘れ
子供たちを洗脳しちまった
お偉いさんたちが勝手に話している
ブルー ID なんかクソ食らえ
俺らも国民の一部というが、
その国民が俺らを異邦人だと言うんだぜ
俺は故郷の異邦人だ
❁《コーラス》

俺はどこへ行くんだ
俺の家はよそ者が乗っ取った
魂が俺に呼びかけるんだ
家族がかろうじての支えた
おれはどこへ行くんだ
同胞たちは俺のイマに無関心
魂が俺に呼びかけるんだ
頑張って歩きな！
**

俺らを邪魔者にする奴らにうんざりだ
眼鏡野郎が俺らをむかつかせる
小さな声で俺らを呪う
雰囲気が俺らを追いやる
その家を建てたのは俺たちの祖先なんだぜ
俺らの仲間はいつもブレない
モスクと教会、それがアラブだ
他の国からきたやつが
俺たちに言うのさ「トランスファーだ」
俺らの権利を侵害している法律に反対しても
俺らの声はかき消される
グリーンラインの内側で俺らの家が壊される
失業が俺らを取り囲む
貧しさで俺らは育ち、貧しさが理性を育てる
心は根っこを守っている
俺らを裏切り者と呼ぶ奴らめ
違うぜ、違う

俺は祖国でちっぽけじゃないだぜ
みんなの悲劇は俺の宿命
世界は俺らを「イスラエル人」だなんて言う
イスラエルは俺らを「パレスチナ人」だと言う
俺は故郷の異邦人だ

＊この曲は youtube で Gareeb Fi Bladi で検索すれば聞くことができます。

おいしいパレスチナ

カフタ・ビ・バンドーラ（パレスチナのひき肉のトマトソース煮込み）

ラム肉にハーブ、玉ねぎ、スパイスを加えて、この古代料理の最もジューシーなバージョンを作る。
カフタは､ひき肉とスパイスを混ぜ合わせたもので､中東、南アジア、ヨーロッパの一部で古くから食べられている料理です。様々な文化がそれぞれの好みに合わせてアレンジし、現在では数え切れないほどの調理法や楽しみ方があります。
レシピの内容
6 ～ 8 人分
材料
中くらいのジャガイモ 4 個（約 680g)、皮をむいて 1/2 インチの厚さに輪切りにする（注参照）
エクストラバージンオリーブオイル大さじ 1（15ml)、さらにドリップ用に追加する。
ダイヤモンドクリスタルコーシャソルトまたはファインシーソルト
ピタパンまたは皮なし白パン（粗くちぎったもの）3 1/2 オンス（100g)（ゆるく詰めたカップ 2 杯分程度
トマト（芯を取り、乱切りにしたもの）1 個（中サイズ、170g)
黄タマネギ（さいの目切り）小 1 個（6 オンス、170 グラム
ニンニク（中）2 片
アナハイム、ハラペーニョ、セラーノなどのグリーンチリ 1 本（茎と種を取る）（お好みで)。
コリアンダーの葉と茎のみじん切り 大さじ 2 杯
平葉パセリの葉と柔らかい茎のみじん切り大さじ 2 杯
オールスパイス 小さじ 1
挽いたシナモン小さじ 1
黒こしょう 小さじ 1/2
クミン 小さじ 1/2
コリアンダー（お好みで）　小さじ 1/2
2 ポンド（900g）のひき肉（牛肉、ラム肉、子牛肉、またはその組み合わせ)、できれば脂肪分 20%のもの（注)。
ソースと組み立てのために：
28 オンス（794g）のトマト缶（汁ごと手でつぶすか、ポテトマッシャーでつぶす。
エクストラバージンオリーブオイル 1/4 カップ（60ml）
ニンニク（中）2 片（つぶす
コーシャーソルトまたはシーソルト、挽きたての黒コショウ
緑色のパプリカ 2 個（約 5 オンス、142g）（茎、種を取り、1/4 インチの厚さの輪切りにする。
春雨、炊いた白米、ピタパンを用意する。
作り方
肉を作る：　オーブンを 425°Ｆ（220℃）に予熱する。縁のある天板にポテトを並べ、オリーブオイルと塩少々を加えて混ぜ合わせ、一列に並べる。焼き色がつくまで、約 35 分焼く。脇に置いておく。
一方、フードプロセッサーに、パン、トマト、タマネギ、ニンニク、チリ（使用する場合)、コリアンダー、パセリ、オールスパイス、シナモン、ブラックペッパー、クミン、コリアンダー、オリーブオイル大さじ 1、ダイヤモンドクリスタル砕塩大さじ 1（9g）（細かい海塩なら半量、同じ重さ）を入れ、粗いペースト状になるまで、必要に応じて側面を削りながらパルスする。
ニンニク、チリ（使用する場合)、コリアンダー、パセリ、オールスパイス、シナモン、ブラックペッパー、クミン、コリアンダー、オリーブオイル大さじ 1、ダイヤモンドクリスタル砕塩大さじ 1（9g)、フードプロセッサーに入れる。大きめのボウルに、ひき肉、加工した野菜、スパイスを入れ、完全に混ざるまで手でよく混ぜ合わせる。
挽き肉を幅 3 インチ、厚さ 3/4 インチのパテにし（約 15 ～ 18 枚)、縁のある天板の上に並べる。表面にきれいな焼き色がつくまで、約 15 分焼く。脇に置いておく。
焼く前と焼いた後のミートパティを並べたところ。
ソースのため、そして組み立てるため：　中くらいのボウルに、砕いたトマトとその汁、オリーブオイル、ニンニク、水 1/2 カップ（118ml）を入れ、よく混ぜる。塩・コショウで味を調える。
ガラスのボウルにオリーブオイルとニンニクをのせたクラッシュドトマトを入れる。
9 ～ 13 インチの長方形の耐熱皿、または 10 ～ 11 インチの楕円形の耐熱皿に、カフタパテを直立させ、ジャガイモのスライスとピーマンの輪切りを交互に並べる（ジャガイモとピーマンはそれぞれ 15 ～ 20 枚程度で十分です。）　カフタの天板に溜まった汁を加え、トマトソースを全体にかける。
カフタを天板に並べる。
ソースが泡立ち、少しとろみがつき、パプリカに焦げ目がつくまで約 25 分焼く。

５月１５日ナクバ７５周年

ヨルダンの国会議員イマド・アルアドワンは、武器を密輸したとイスラエルに逮捕され、５月７日ヨルダンに送還されたが、議員免責を剥奪され１５年の刑となった。

５月１６日ナクバ７５周年でマリアム・アルナジャールさんはイスラエルの建国よりも古いパレスチナの伝統的なドレスを公開した。

５月１５日パレスチナ系クネセット議員アイマン・オデーが議員を退職することを明らかにした。オデー議員は、クネセットでのジョイント・リストの中心として８年間活動してきた。今後は、社会運動などをになっていくと表明。

今号の内容

ガザへの攻撃は国内危機の回避のためである・・・1
恐怖の均衡に支えられた戦闘での抵抗・・・・・・・2
イスラエルで最もハードな警告・・・・・・3
レジスタンスの反応を待っている・・・・・5
パレスチナ人の消滅というシオニストの夢・・6
新人の3分の一がフィールドサービスを拒否・・8
パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・9
パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・14
おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・15
トピック・・・・・・・・・・・・・・・・16

５月１９日数千人の過激派入植者たちによる挑発的な旗の行進がエルサレムの旧市街で繰り返した。この行進には、閣僚で過激派のベン＝グビエールも参加した。

５月１１日パレスチナ特派員であったシャリーン・アブアクレがイスラエルの銃弾に倒れて一年になるが、いまだに、真相の解明が行われていない。